



問 「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」⑦

答 肥満の漢方治療について、お話を続けます。表の「水太りタイプ」の三番目、九味檳榔湯くみひんろうとうに関して、私は、知識も使用経験も持ち合わせていませんので、割愛させていただきます。今回は、「瘀血あけつ、(要するに)血の流れが悪い」ということですので、「血を伴う場合」の一番目、桃核承気湯とうかくじやうきとうについてお話します。

桃核承気湯は、漢方の重要な古典である「傷寒論しやうかんろん」に登場します。構成生薬は、桃とう仁にん、桂枝けいし、芒硝ぼうしょう、大黃たいおう、甘草かんそうです。

「下腹の血の流れが悪くなり、そこが熱をもつようになると、精神的にも過敏となる。血の流れが回復すれば、自然に治癒する。もし治癒しなけ

れば、血の流れを改善し、熱をとる

治療を施すべきである。特に『少腹

急結』がある場合には、桃核承気湯

が有効である」と、傷寒論の条文に

記載されています。

図1は、江戸時代に発刊された「腹

證奇覽翼しやうきらんよく」の中にある桃核承気湯の

腹証図です。お腹の左側に所見があ

ることが分ります。図2は、私の漢

方の師匠がかかれた桃核承気湯の腹

証図です。左の下腹が硬くなり、お

さえると痛みます。これが「少腹急

123

桃核承気湯図 (頁三下世)



図1

肥満の頻用処方

固太りタイプ

ぼうふうつうしやうさん だいさい こうとう
防風通聖散、大柴胡湯、
だいじやうきとう
大承気湯

水太りタイプ

ぼうい oushi とう えっぴ かじゆつとう
防己黄耆湯、越婢加朮湯、
くみひんろうとう
九味檳榔湯

瘀血を伴う場合

とうかくじやうきとう けいし ぶくりやうがん
桃核承気湯、桂枝茯苓丸

気逆・気鬱を伴う場合

さいこ かりゆうこつぼ れいとう とうかくじやうきとう
柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、
かみしやうやうさん よくかんざん
加味逍遙散、抑肝散、
はんげこうぼくとう
半夏厚朴湯

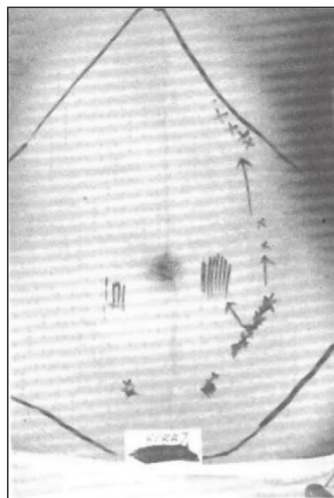


図2

結」です。桃核承気湯は、桃仁を主役として、この「少腹急結」を退治し、血の流れを改善します。

(日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」)